



# SSH通信

～第Ⅲ期 新しい挑戦を楽しもう！～

## JSEC2025で花王奨励賞受賞！！

JSEC2025(第23回 高校生・高専生科学技術チャレンジ)の最終審査が行われ、各分野の受賞者が決まりました。自然科学部の活躍のほか、イノベーション理数探究Ⅰ(2年生)・Ⅱ(3年生)の授業を通じた研究の取り組みが評価されました。受賞者の皆さんおめでとうございます。皆さんの今後の活躍を期待します。がんばれ、三高生！

### ○花王奨励賞

皆川 椋哉(自然科学部化学班) ホウ砂を用いた粉末固化の研究

### ○審査員奨励賞(ISEF2026アリゾナ州フェニックス派遣)

千葉 温(イノベーション理数探究Ⅱ)

鉛筆キャップの歳差運動における自転と旋回の平衡

### ○入選

伊藤 天伽(自然科学部地学班)

氷と塩からみえたエウロパの世界 ―カオス地形の形成メカニズム解明―

### ○佳作

菅原 直太郎、高橋 応、佐藤 飛翔(イノベーション理数探究Ⅰ)

靴紐の動摩擦力の測定装置の開発と測定



花王奨励賞  
賞状、研究奨励金

皆川 椋哉

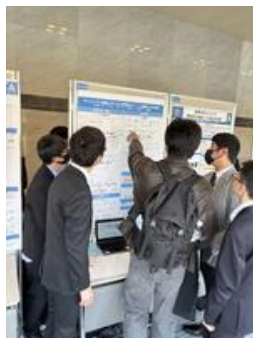
(宮城県仙台第三高等学校)

## 「リジェネロン国際学生科学技術フェア(Regeneron ISEF)2026」にて文部科学大臣特別賞受賞！

JSEC2025(第23回 高校生・高専生科学技術チャレンジ)の最終審査の結果、アメリカ・アリゾナ州フェニックスで5月9日～15日に開催された「リジェネロン国際学生科学技術フェア(Regeneron ISEF)2026」に本校卒業生の千葉温さんが参加しました。その結果、物理学・天文学部門において文部科学大臣特別賞を受賞しました！おめでとうございます！

## つくばScience Edgeに参加しました(2026.3.27-28)

令和8年3月27・28日の両日につくば国際会議場で行われたつくばScienceEdge2026に数学、物理、生物の3つのテーマで出場しました。全国、海外からたくさんの高校生が集結し、477におよぶ探究活動の成果発表がありました。残念ながら受賞とはなりませんでしたが、台北の高校生と英語で交流し、充実した2日間でした。令和8年度のつくば研修は、令和9年3月に実施予定です。



## 国際共同研究がキックオフしました！(2026.4.1)

令和8年4月1日(水)、SSH学校設定科目「イノベーション理数探究Ⅰ」において、新2年生理数科の生徒4名が参加する国際共同研究のキックオフミーティングを実施しました。本取組は、台湾の明道高級中学の生徒とともに、マイクロプラスチックに関する研究を1年間にわたり進めていくものです。

当日はオンラインツールを活用し、日本と台湾をつなぎながらミーティングを行いました。初対面で緊張した様子も見られましたが、次第に打ち解け、積極的にコミュニケーションを図る姿が印象的でした。今回のキックオフを通して、生徒たちは国際共同研究の意義や難しさを実感するとともに、異なる文化や背景をもつ仲間と協働することの大切さを学びました。

今後はオンラインでのやり取りを重ねながら、マイクロプラスチックという地球規模の課題に対して、両校の視点を生かした研究を深めていきます。今後の研究の進展にもぜひご期待ください。



# 『三高探究の日』開催！ (2026.5.14)



令和8年5月14日(木)に、本校を会場とし『三高探究の日』が開催されました。3年生が中心となり、これまで積み重ねてきた探究・研究活動の成果発表を行いました。当日は、学内の生徒だけでなく、大学の先生方や外部の有識者、さらには多くの他校の生徒のみなさんが参加し、活発な交流が行われました。

午前のポスター発表では、3年生の全探究班に加えて他校も参加し、体育館等で多様なテーマの発表が行われました。午後には、台湾の台中市私立明道高級中学と本校理数科の代表班が、それぞれの科学実験や地質研究について英語で発表し合い、国境を越えたアカデミックコミュニケーションを実現しました。また、2年生全員が各自の探究概要を発表し、1、3年生を含むグループ内で質疑応答を行う「ピアレビュー」も実施され、今後の探究活動へ向けて大きな示唆を得る貴重な機会となりました。最後に師範発表が体育館で行われ、多くの聴衆の前で質疑応答や専門的な助言を交えた充実した発表が展開されました。

## 集大成の1日：緊張を越えた先にある楽しさ (理数科3年2組 中塚 葵海さん(みどり台中出身))



一年生のときに、三年生の集大成という言葉聞いたのがほんのちょっと前のときだったかのようにあっという間に三年生で探究の日を迎えました。私は、台湾の明道高校との交流にも参加しました。ものすごく緊張していましたが、始まってからは緊張せず、興味深い研究内容を聞いたので、とても楽しかったです。パッションで伝えようとすることが大事だな、と改めて思いました。色々な先生方からアドバイスや質問を頂いて、すごく興味深い探究発表だったと思います。こういった経験を活かしてこれからの生活も頑張りたいと思います!!

## 絶えぬ好奇心と駆け回る精神 (普通科3年5組 西牧 希さん(広瀬中出身))

元々昨年の十二月まで自分たちの探究は目標も手段も何も決まらず、その場しのぎの発表を繰り返し、修学旅行中の訪問先や立命館宇治高校との交流でインスピレーションを得て前へ動き出したプロジェクトであった。まだ検証が不十分だったり、考えが浅はかな部分があったりしたことは確かである。しかし、短い期間ではあったものの数々の発表会で講評や先生たちのサポートを得ながら良い集大成へと繋がれたと思う。また、探究活動にあまり興味がなかったり、うまく前に進まず悩んでいたような場合、自分の好奇心に向き合って生活することや、自ら講演会や発表会に参加することで新たな切り口や、解決方法を得られるということを知ることができた。

研究に必要なことは絶えぬ好奇心と、他領域の学問を縦横無尽に駆け回り刺激を得ようとする精神だと学びが深まった。



## 視点の変化からわかる自己の成長 (普通科3年7組 佐藤 陽向さん(利府西中出身))



一つの事柄について考えを巡らせ、今になって達成感というか、自己肯定感のようなものを感じ始めた。自分はやりきれたのかなと思いを馳せるようになった。そんな中で1・2年生の発表を見てみると、過去の自分を見ているようで少し懐かしい気分になった。仮説と結論が一貫しているか、その図表の読み取りは本当に正確か、プレゼンのやり方自体下を向いて原稿丸読みになっていないかなど自分が最近気をつけるようになったことに意識が向いた。そして、単に知見を広げる場としても有意義な時間だった。様々な人の考えに触れて、知識も思考も高めることができた。